

学校教育目標	◎よく考える子 ○進んで働く子	○思いやりのある子 ○体力のある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	『のびる かみっ子』～元気があれば 何でもできる～ 「元氣な心」「元氣な身体」「元氣な頭」「元氣な気持ち」を育成する学校 【人権意識をもち、自分のよさを理解すると共に、友達のよさも認める子】 【コミュニケーション能力をもち、自分の思いや考えを表現する子】 【主体的に学びに向かい、自分の考えを広げ、深める子】 【常に創意工夫をし、児童の資質や能力を伸ばす教育を展開しようと学び続ける教師】
前年度までの本校の現状	成果	○児童が毎日学校に楽しく通うことができています。 ○ICT機器（児童の学習用タブレット端末を含む）活用と授業方法の工夫。 ○基礎学力定着につながる指導の充実と学習規律の向上。	課題	○主体的に学ぶ力、考えを広げ・深める力のさらなる育成 ○仮設校舎による運動の場の制限、それに伴う、運動の日常化・習慣化への課題 ○UDLを意識した個に応じた指導の充実

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価（A～D）		「中間」学校関係者評価（A～D）		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○学習の基礎・基本の確実な習得に向けて学力向上委員会を中心とした組織的な取組の実施・充実と授業改善の推進	・校内研究を軸とした学習指導の流れの確立 ・校内補習「のびのびタイム」の実施 ・放課後補習教室（EDOスク）の有効活用	・年間3回の授業研究での授業実践 ・月1回、のびのびタイムの実施 ・児童アンケートにおいて、80%以上が主体的に学習に取り組んでいると回答 ・区学力調査、学習診断シートでの各学年の正答率70%以上	80%	90%	B	○全国学力・学習状況調査の結果では、全国平均を上回り、都平均に大きく近づくことができた。 ○算数におけるアンケートでは、80%の児童が意欲をもって取り組んでいるという回答であった。 ●区定着度調査では、平均正答率が66.5%という結果であった。	B	・子供たちが意欲をもって楽しく学んでいることが大切だと思う。これからも楽しさを大事にしなが学力の向上にもつなげてほしい。 ・学力の結果としても高まっていることは喜ばしいことだと思う。	A	○江戸川区学力調査において、5・6年生は全国平均を上回る結果となった。区学力向上プロジェクトでの取組の成果ともいえる。 ○低・中学年においては、のびのびタイムを活用し、個別指導の充実を図ることができた。	A	・結果として出ていることがとても喜ばしいことです。学力のための学力向上ではなく、子供たちの学び楽しさの高まりを期待したい。	・校内学力向上委員会を中心に、学校全体でより具体的な学力向上の在り方を検討し、組織的な取組を推進していく。
	○ICTを活用した更なる学習の推進	・タブレット端末を活用した個に応じた学習の実施 ・メディアリテラシー教育の実施	・毎週、ミライシード（ドリルパーク）を使った個に応じた学習の実施 ・年3回、ICT支援員による校内研修の実施	80%	80%	B	○ICT支援員と連携し、ミライシードの活用を図ることができた。 ●メディアリテラシー（SNS含む）に関する指導の進め方に課題がある。	B	・先生方が工夫しながら授業をされている。ICT機器も上手に活用して、一人一人の意欲を高めてほしい。	B	○各学年において、ミライシードのドリルパーク、オクリンクプラスを活用した学習を行うことができた。 ●教員によつての取組の差が見られたので、全教員の活用を進める。	B	・教科書・ノートだけでなくタブレット端末を使っての学習となる。バランスよく使っていけるようになってほしい。	・支援員と連携し、ICT研修のさらなる充実を図り、どの学級においても同レベルのタブレット端末の活用を推進する。
	○読書科の更なる充実	・読書科ノートを活用した探究的な学習活動の実施 ・図書館巡回職員、図書ボランティアとの連携	・年1回、読書活動を通じた学年ごとの探究的な学習の実施 ・年8回の読み聞かせ活動の実施	75%	70%	B	○よむYomuワークシートの実践を進めることができた。 ○図書館司書、ボランティアとの連携を図ることができた。 ●探究的な学習の取組に課題がある。	B	・図書ボランティアさんの協力もあって、図書室の環境が良いことが分かる。進んで本を読む子供たちを引き続き増やしてほしい。	B	○引き続き、よむYomuワークシートの実践を進めることができた。 ●読書科ノートの活用を進めることが不十分であった。	B	・本を読む楽しさをいろいろな形で味わえるように、工夫していくことが大切である。	・各学年ごとの探究学習の目標設定を見直し、計画的に取り組むことができるようにする。
体力向上	○運動意欲の向上、体力や健康に関心をもち、高めようとする態度の育成	・ICTを活用した、めあて学習の実施 ・外部講師による運動の紹介、民間水泳施設による水泳指導の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が、運動への関心に対して肯定的な回答	80%	85%	B	○民間施設との連携を図りながら水泳指導を行い、児童の意欲的な取組につなげることができた。 ●学年ごとICTを活用した取組の差が出てしまった。	B	・元気に体を動かす子供たちでいてほしい。学校は改革中で十分な環境ではないが、様々な方法を工夫して運動の機会を増やしてくれていることが難しい。	B	○校内体育部を中心に、体育実技研修を行い、教員の指導力向上につなげることができた。 ●学習のめあてや振り返り、学び合いにICTを活用しきれない部分があった。	A	・先生たちが努力し、子供たちの体力を考えていただけてとてもありがたい。楽しく体を動かせるようになってほしい。	・実技研修の中に、技能ポイントや指導の仕方、児童の学習場面でICT活用を含めた研修を行う。
	○個に応じた体力向上のための取組の実施・充実	・なわ跳びウィーク、運動遊びでの運動時間の確保 ・体力カルテによる現状把握と目標の設定、動画の視聴	・80%以上の児童が校内なわ跳びコンテストに参加 ・タブレット端末による数値の入力、ポイント動画の視聴	65%	80%	B	○なわ跳びの取組を全校で進めることができた。 ●体力カルテの十分な活用ができていなかった。	B	・身近な運動であるなわ跳びを積極的に取り入れていることは素晴らしい。運動好きな子供たちであってほしい。	B	○江戸川っ子なわ跳びコンテストでは、4年生が入賞し、成果をあげた。 ●体力カルテを使った体力向上の取組が不十分であった。	B	・友達同士で声をかけ合い、縄跳びや竹馬、一輪車など運動に取り組んでいただけた。	・体力向上に対する児童自身の視点をもたせ、主体的な取組ができるよう進める。
	○仮設校舎による運動環境の制限がある中での運動の習慣化の育成	・ブレイルームの活用 ・河川敷体育、その他区内施設の活用	・児童アンケートにおいて、80%以上が、毎日体を動かして遊んでいる、運動していると回答	90%	90%	A	○校庭拡張により、運動の機会を確保するとともに、校内の運動遊びの体制づくりを組織的に行うことができた。	A	・校庭で元気に遊ぶ姿があるのは大変ありがたい。地域としても子供たちの遊び場や運動の機会の確保ができるよう応援したい。	A	○休み時間には拡張された校庭で、思い切り体を動かすことができた。 ○区施設課と連携し、計画的に運動の場を確保することができた。	A	・広くなった校庭で遊ぶのはとても素晴らしいことです。校庭がなくなつてからの取組を改めて考えていただけた。	・次年度から校舎改築工事が始まるため、校庭の全くない状況となる。児童の運動の場を確保するためソ式的に検討していく。
教育の推進 共生社会の実現に向けた	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・教室環境のユニバーサルデザイン化 ・巡回指導教員、特別支援専門員、日本語指導教員との連携	・毎週学級担任と巡回指導教員との振り返りの実施 ・毎月特別支援コーディネーターと専門員の打ち合わせの実施	80%	80%	B	○学級担任と巡回指導教員との連携を図ることができた。 ●全校体制のユニバーサルデザインへの理解と取組に差が出てしまった。	B	・様々な子供たちがいる中で、工夫をされていることが分かる。これからも連携の体制をしっかりとつなげてほしい。	B	○巡回指導教員との打ち合わせが定着し、対応の質を高めることができた。 ●UDLのさらなる理解を深める必要がある。	B	・保護者の方とも連携しながら、一人一人の子供たちを見てほしい。	・個に応じた指導、学びのユニバーサルデザインの視点を全職員がもてるよう研修を重ねていく。
	○エンカレッジルーム（特別支援教室）の活用促進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・学校公開や保護者会においてエンカレッジルームの紹介の実施。	90%	90%	A	○学校公開の中で、多くの保護者にエンカレッジルームの紹介し、特別支援教室の理解を図ることができた。	A	・保護者が知ることはとても大切なことであるので、継続的な発信をしてほしい。	A	○コーディネーター、専門員、養護教諭、担任が連携し、エンカレッジルームの活用を行うことができた。	A	・学校には様々な場所や取組があることを地域も知っていく必要があると思う。	・校内委員会のさらなる充実を図っていく。
	○副籍交流による連携の充実、交流の実施	・年間計画に基づいた交流	・学期ごと手紙等での交流の実施 ・年2回以上の交流会の開催	85%	90%	A	○学校公開や授業内での交流を進めることができた。	A	・多くの交流の機会があることはとても大切であると思う。	A	○年間の計画に合わせて、交流を行うことができた。	A	・今後も積極的に交流を進めてほしい。	・次年度も継続的に取組を進めていく。
不登校・いじめ対応の充実	○自己有用感・多様性の尊重を大切に魅力ある学校づくりの推進	・特別活動、道徳及び他教科と関連させた指導	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学校生活・学習は楽しいと回答	80%	80%	B	○全国学力・学習状況調査では、86%の児童が、学校は楽しいと回答することができた。 ●道徳指導、学級活動のさらなる充実が必要である。	A	・「学校が楽しい」と思えることは、何よりも大切であると思う。先生方が日々、子供たちと向き合っていたに感謝したい。	B	○児童アンケートにおいて、80%を超える児童が、学校が楽しいと回答することができた。 ●各学級での学級会の取組に差が見られた。	A	・楽しく学校に通うことが一番である。先生たちが日ごろから子供たちをよく見ていることを有難く感じている。	・「楽しい学校上小岩」を合言葉に、学級活動、道徳のさらなる充実を図るようになる。
	○OL-Gateの活用	・毎週のL-Gateの実施、分析、今後の指導の改善	・児童アンケートにおいて、80%以上が、学級の居心地がよいと回答	80%	80%	B	○OL-Gateの回答を担当が確認し、指導に生かすことができた。 ●学年によつて取組の差が出てしまった。	B	・子供たちの気持ちを把握する手段として活用できていることは、大切だと思う。	B	○OL-Gateを使って、児童の言葉では現れない部分を見取ることができた。 ●教員によつての取組回数の差が見られた。	B	・一人一人に寄り添っていくことができるように、工夫をしていることがよく分かる。	・継続的な取組を行い、日々の変化に気付けるよう、計画的な研修を行っていく。
	○教育相談の強化	・ふれあい月間の実施 ・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーへの積極的な連携 ・5年生へのSC面談の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が、相談しやすい環境であると回答	85%	85%	B	○OSC、SSWと連携し、児童の状況に合わせて支援を行うことができた。 ●思いやりをもって、よりよく他者とかわる指導の充実を図る必要がある。	B	・いじめや不登校の問題については、学校全体でしっかりと取り組んでほしい。専門家と協力をしながら教育活動を進めていくことが大切であると思う。	B	○OSC、SSWとの連携を充実させることができ、児童や家庭への助言に生かすことができた。 ●心理プログラムなど授業にSCを生かすことが不十分であった。	B	・いじめや不登校への対策を学校全体で取り組んでいただいている。引き続き、協力しながら進めてほしい。	・SCやSSWの活用の在り方を組織で検討し、様々な場面で力を発揮できるように進める。
地域学校社会に実現された	○学校ホームページ、連絡メールによる学校生活の様子、配付文書の配信・充実	・学校日記による学校生活の様子の配信 ・ホームページの整理、各項目の更新 ・連絡メールによる文書の配信	・毎週の学校日記の配信 ・毎月の学校だより、学年だよりの配信	95%	95%	A	○学校ホームページ、連絡メール等において学校の様子や状況を伝えることができた。 ○ホームページの更新を進めることができた。	A	・学校だよりは、学校の様子を丁寧に伝えていただいている。学校ホームページや連絡メールも上手に活用していき、教育活動に対する理解がさらに深まっていくとよい。	A	○年間を通して、学校ホームページ、連絡メール等において学校の様子や状況を伝えることができた。	A	・学校の様子をしっかりと手紙で伝えていただいていることに感謝している。	・校内情報部を中心に、各学年の取組を学校ホームページで紹介できるように進めていく。
	○教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・学校評議員会での意見交換 ・保護者アンケートによる教育活動の評価	・年3回の学校評議員会の開催 ・年1回保護者アンケートの実施	85%	85%	B	○学校評議員会において意見交換を進めることができた。 ●昨年度のアンケート結果の考察を適切に進めていく。	B	・限られた回数の中で、しっかりと情報共有、意見交換等ができています。引き続き連携を強化していきたい。	B	○学校評議員会において、学校に対するご意見を伺い、学校運営に生かすことができた。 ●学校評価を適切に生かすようにする。	A	・コミュニティスクールという新しい組織の中で、引き続き学校の応援をしていきたいと思う。	・次年度からのコミュニティスクールの取組に向けて、組織の在り方を検討していく。
	○地域の教育力を生かした活動の充実	・学校応援団、見守り隊の活動の実施 ・七夕集会以降の学校評議員による講話	・定期的な登下校の見守り、公園移動の際の見守り ・7月、七夕集会の実施 ・年1回の地域教育懇談会の開催	80%	90%	B	○予定通り集会や懇談会を実施することができた。 ●地域人材のさらなる活用を進めていく。	B	・地域の力の活用、地域人材をこれからも充実させていき、子供たちの成長につなげていきたい。何かあれば遠慮なく言ってほしい。	B	○今年度も、たくさんの方々にご協力をいただいていた教育活動を進めることができた。	A	・地域で、学校に応援できることは引き続き行っていきたい。	・コミュニティスクールとして、どのように地域人材を活用していくか協議を重ねていく。
教育の展開 特色ある	○道徳教育の充実	・全学年共通の指導の重点項目を明確にした授業の実施	・児童アンケートにおいて、80%以上が自分も相手も大切にできたと回答	80%	80%	B	○学年の実態に応じた道徳指導を行うことができた。 ●指導の重点について共通理解を徹底する必要がある。	B	・一人一人の心の教育を大切にしながら、これからもみんなが互いを認め合える学校となるようお願いしたい。	B	○学年間でどのような指導方法が良いか協議することができた。 ●重点項目を設定だけでなく、目標をさらに明確にしていける必要がある。	B	・道徳の学びのなかで、子供たちにたくさんの気付きを生んでほしい。	・校内研究において、道徳を学び、教員一人一人の指導力を高めていく。
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成、計画的なOJTの実施	・全教員年に1回の教員間の授業公開を実施 ・月に1回、OJT研修の開催	70%	75%	B	○実技研修を開催し、授業改善に生かすことができた。 ●各学級で授業を公開し、教員一人一人の授業力を高める必要がある。	B	・子供たちのために、多忙な中でも研修を重ねていることがとても素晴らしい。計画的に取り組んでほしい。	B	○主任教諭が若手に対しての指導を視点に置いて日々声をかける姿が見られた。 ●明確なOJTの設定をさらに進める必要がある。	B	・若い先生たちを中心に、見えないところで研鑽を重ねていることが素晴らしいと思う。	・主幹教諭がOJT計画を推進し、主任教諭が具体的な指導・助言ができるようにしていく。
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の平均月残業時間を45時間以下	65%	80%	B	○教員一人一人のタイムマネジメント意識が高まっている。 ●平均残業時間45時間を超える月が出てしまった。	B	・体が第一である。無理をせずに、健康に気を付けて職務に向かえるとよい。	B	○ライフワークバランスの意識を学校全体で高めることができた。 ●時間だけでなく、仕事の質をさらに意識していく必要がある。	A	・今年度も先生たちが一生懸命に仕事をされていることに敬意を表したいと思う。	・自己申告において、教職員一人一人が具体的な働き方の在り方を考えていけるようにする。